

小中学校の連携を深めるとともに、地域の様子や子どもたちの実態を知り、
子どもたちの指導に生かしていこう

I 主題設定の理由

同じ笛川中学区で学ぶ児童・生徒たちをともに教育していくという立場から、児童・生徒たちの基盤である地域の臨地研修や、今日的な課題に迫る学習会、小中学校の授業参観・交流会を計画、実践していく。こうした活動から、教師間の連携を深め、児童・生徒への理解を図るとともに、系統的な教育活動をめざしていきたい。

II 研究の内容・方法

1 第1回ブロック交流研究会「臨地研修」

(1) 日時 8月7日(水)

(2) 目的 地域の産業に目を向け、見学したり体験したりすることを通して地域を知り、児童・生徒の学習に生かす。
同じ地区内の先生方との交流を図る。

(3) 内容 見学コースとこんにやくづくりコースに分かれ研修する。

[見学コース]

- ・帝国インキ工場
- ・丸山こんにやく工場
- ・室伏学校

[こんにやく作りコース]

- ・地域の方を講師に、粉からのこんにやく作り

2 第2回ブロック交流研究会「笛川中公開授業参観」

(1) 日時 11月6日(金)

(2) 目的 小学校の教職員が、笛川中学校の公開授業や小学校の卒業生の様子を参観し、指導法を学んだり、実態を把握したりして、連携した教育が行われるようにする。

(3) 内容 研究主題 主体的に学習に取り組む生徒の育成
～一人ひとりの学習意欲の向上をめざして～

[公開授業]

1年 国語 山下栄子教諭

2年 数学 丹澤千明教諭

1年 英語 澤田奈々教諭 古屋浩紀教諭 エミリー・アプス ALT

[全体会]

研究概要説明 質疑 指導助言 講評

3 第3回ブロック交流研究会「学習会」

- (1) 日時 1月13日(水)
- (2) 目的 電子黒板の使い方や教材作りの方法について情報を得ることで、今後の学習指導に生かす。
- (3) 内容 「電子黒板を生かした教材づくり」という題目で、山梨パナソニックシステムの方を講師に、電子黒板を使った教材づくりや資料の取り扱いについて学ぶ。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・臨地研修→授業参観→全体研修とスムーズに進められてよかった。
- ・工場見学は、子どもたちの教材となるいくつかの素材の見学ができ、これからの学習計画立案や指導の役に立つ。
- ・こんにやく作りの体験は有意義で、他校の先生との交流の場となったし、地域の人々が講師ということでもいろいろな話ができ、地域との連携にもつながった。地域人材の活用面でもよかった。
- ・臨地研修は、地域を回ることができ、地域を知るよい機会となった。個人ではなかなか研修することはできない。今後も臨地研修は継続していきたい。
- ・笛川中の公開研究に参加し、授業の工夫や指導方法を知ることができた。
- ・中学校の授業を参観することで卒業生の様子が分かり、小学校の教育課程を見直さきっかけとなった。
- ・電子黒板の研修は、今日的課題を具体的に研修でき大変勉強になった。
- ・学習会では、グループワークというとなかなか難しいので、今年度のような電子黒板のようなタイムリーなものでよかった。

2 課題

- ・小学校、中学校の授業もお互い参観しているので、それを交えて交流会が持てるとよい。
- ・夏の研修など、推進委員でうまく分担できるとよい。ブロック長の引き継ぎも早くして計画が早めに立てられるとよい。
- ・臨地研修の場所について、事前に情報を集めたり、希望を聞くことで多様な研修ができると思う。
- ・夏期休業中の交流会には、中学の各種大会と重ならないように実施時期の検討が必要だと思う。

(ブロック長 山本 ふみ子)